

～輝きの子育て～

J. F. ケネディに学ぶ

米国の対中対決は、貿易問題から、安全保障やハイテク製品にまで拡大、覇権争いは激化しています。南シナ海、台湾問題、EU 離脱問題で混迷する英国、中東の不安定化、欧州の極右政党の躍進、韓国左傾化と国際条約無視、その上、トランプ大統領の日米安全保障条約についての本音発言（日米安保の不平等性の指摘）。今後の日米貿易交渉では、日本の屋台骨を揺るがす結果が待っているかも知れない。

国際問題は、即、私たちの生活を直撃します。こんな状況の時に参議院選挙があり、終わった。

選挙での諸政党、所候補者の政見を読んだら、どれにも共通するのは、子育て支援、暮らせる年金、教育無償化、消費税の賛否、景気回復と雇用、そしてNHK改革、安楽死等である。すべて“皆がしあわせになろうと”というものばかりで大変結構だが、国民の国への要求ばかりに政治家がこれに迎合して、あれをします、これをしますと聞こえのよい言葉を並べています。突如、外国が侵略して来たらどうすると言った国防問題はほとんど無視されています。票にならないからです。

世界的にも自己の権利を過度に主張する国民とそれに迎合するリーダーによるポピュリズムが蔓延しており、国家と国民、国家と国家の関係に危うさが漂っている現状に危惧せざるを得ません。

少し昔の話になりますが、こうした風潮に敢然と「ノー」を突きつけた人がいます。

1961年43歳で米国大統領に就任したジョン・F・ケネディです。その風貌は若々しくて、弁舌爽やかで政治に新風を求める国民の期待が高まりました。

その就任演説は

「あなたの国家があなたのために何をしてくれるかではなく、
あなたが国家のために何ができるかを問うてほしい。」

有名な演説でしたので、当時CDがバカ売れしました。

今回の参議院選挙を通じ思い出したのがこの演説でした。

いまこそ、ケネディのような高い見識と勇気を備えたリーダーの登場を心から願うとともに私たち一人一人がその精神を学び、国のため、社会のために何ができるかを自らの胸に問うていかなければならないと思います。

今のような、不安定な困難の時に、国会議員を選んでその中からリーダーを選出する日本のやり方では、ケネディのような人物は現れないと思う。（議員にえられないから。）思いきって国民直接選出の首相制や大統領制の論議が起こってもよいように思います。

今回は、子育てを離れて、私の腹立ちを記させてもらいました。

片野 英司

